



明治七年正月滋賀縣下北二區小学教員藤田庸中ハ酒樽小独樂一五音五餘モ
 泥小廻る車小補けのせられ新聞通
 降らう粧ひを見るより庸中うら
 をぬり車上をこびわり
 まさ室咲の袂さ人統
 びるゆる風骨を一校
 折て活かすと袖と裾さふ
 たえおれて花をひきめる鬼真の這り
 まんより小女子ハ駭かさらへし袖をさう切
 雪散乱と送うせつを公羽の未方今さらねども
 さらを轉を人取らとささきふ有様敬言察官
 見とかわらまは肩へ幸まき一振舞ハるも白日くら
 やみの子著の嗅名歎子以テ耻ワ可けんやと

報知五百五号五号笑話ス

文花山人述

大錦雲日々新聞紙 第六号



眞信画

影九一

海岳板
 男工政板